

# 移動・空間・時間研究会

◎ 山本晃子 (文学研究科D2)、○三浦景星(言語教育情報研究科M2)、DU Tianyi (文学研究科D6)、寺倉大智 (言語教育情報研究科研修生)、言語教育センター外国語嘱託講師 YIN Yuqi(総合研究大学院大学D4)\*、川畑祐貴 (京都大学大学院文学研究科D4)\*、二宗美紀(立命館大学)\* ◎代表者、○副代表者、\*外部メンバー又はゲスト

## 目的

世界の言語を対照しながら、認知言語学(認知意味論)やその他の言語学の理論を援用し、言語の空間時間認知の一端を明らかにすることを目的としています。

## 定期的な研究会の開催

1カ月に一回程度、研究会を開催しました。研究会では主に、メンバー自身が行っている研究についての発表を行いました。発表後のディスカッションを通して、メンバー全員の学びを深めることができました。

## 読書会の開催

研究会とは別に、今年度は読書会も実施しました。メンバーとともに文献を読み込みことで、新たな気づきや学びを得ることができました。



D.デイヴィッドソン (著)、服部裕幸・柴田正良 (訳) (1990) 『行為と出来事』 勁草書房

## 学外の先生を招いた特別講演会

今年度は学外の先生をお招きし、2件の講演会を行うことができました。研究会メンバー以外の方々にも参加いただき、参加者全員で活発な議論を行いました。

### アイヌ語における時間表現について

北海道博物館 研究職員 吉川 佳見

2024/9/24 立命館大学「移動・空間・時間研究会(いくじ研)」講演



### スペイン語の動詞体系概要

立命館大学/移動・空間・時間研究会(いくじ研)

一直説法現在形、点過去形、線過去形を中心にしてー

山村ひろみ  
2025/02/12

## 研究会実績

- 川畑祐貴 (2024a) 「朝鮮語における時間的遠近の表示について：時点位置と時間間隔の関係性」『朝鮮学報』264: 75-117.
- 川畑祐貴 (2024b) 「朝鮮語の時間的遠近の明示形式にみられる概念的特徴」『京都大学言語学研究』43: 109-135.
- 二宗美紀 (2024) 「時空間の表現からみるser/estarの選択性」日本イスペインヤ学会第70回大会口頭発表, 京都外国語大学. 2024年10月13日.
- 二宗美紀 (2025) 「「再認のser」に関する一試案：日西対照の観点から“es aquí”の解釈を考える」(スペイン語タイトル: Acerca del verbo ser como “reconocimiento”: El caso de “es aquí” en una revisión contrastiva entre español y japonés) 関西スペイン語学研究会口頭発表, Zoom開催. 2025年1月25日.
- 山本晃子 (2024) 「話し言葉における助数詞〈つ〉〈個〉の使用実態に関する一考察」『論究日本文学』121: 21-36.
- 山本晃子 (2024) 「話し言葉における助数詞の選択に関する一考察—〈枚〉〈本〉〈つ〉〈個〉に注目して—」日本語文法学会第25回大会口頭発表, 九州大学. 2024年12月14日.
- YIN, Yuqi (upcoming, 2025) Event conceptualization in Japanese multi-verb expressions: Is event packaging related to the monoclausality of its linguistic representation? NINJAL Research Papers.
- 印雨琪 (2024) 「日本語複動詞文における単節性と事象認知の関係：実証的アプローチ」日本言語学会第168回大会ポスター発表, 国際基督教大学. 2024年6月29日.